

館報

No.22

1980. 6.

徳島大学附属図書館

就任あいさつ
前館長として
附属図書館文化行事
ISU図書館雑感

就任あいさつ

竹治貞夫

去る4月から、自らはからず徳島大学附属図書館長の重責を担うことになりました。歴代の館長をはじめ、館員の皆さんのたゆみない努力によって、昔の姿を知る者にとっては、今日の図書館は全く見違えるように立派な設備が整い、図書・資料が充実されております。しかしながら現代の急速な学術の進展と、おびただしい情報の氾濫に対処して、大学の研究と教育を支える基盤としての図書館の機能を、十分に発揮して行くことは容易なわざではありません。関係各方面の温かい御支援をこいねがう次第であります。

さて就任以来早くも3か月、これまで専ら利用者の立場に在って外から眺めていた図書館を、管理者の立場に移って内側から考えなければならないことになりました。また中央・地方の図書館協議会に出席して、現在の大学図書館の抱えている問題点のあらましを窺うことができました。以下私の思いつくままに、本学図書館の現況について、将来への念願を交えながら少し述べてみたいと思います。

大学図書館は、大学が必要とする図書・資料と学術情報を広く収集・整理・保存して、研究者に対して研究と調査の場を、また学生に学習・教養の便宜を提供することを、使命としております。「万卷の書を読むに非ざるよりは、いづくんぞ千秋の人と為ることを得ん」とは、幕末の俊秀を集めた松下村塾の門聯の1句であります。時代は移り変わっても、志を立てて大学の門に入った者の先ず努むべき要件のひとつが、読書にあることに変わりはないと思います。こうした学習図書館としての役割を果たすものとして、学生用図書の充実が図られており、広々として快適な閲覧室の中央に開架式の書架を列して、それらが収められております。

これらの図書は、学内協力費と文部省配分の学生用図書購入費とを併せて、各学部教官並びに選書委員の教官の手を煩わして、選定された教養図書及び専門参考書であります。特に近年文部省の学生用図書購入費が大幅に増額されてきたために、充実の度を高めて参りました。学生諸君は常に図書館に親しんでこれらの図書を活用し、豊かな人間形成と専門分野の造詣に励まれる

よう希望いたします。

研究図書館としての主要な図書資料は、各学部研究室予算による購入図書・雑誌でありまして、図書館による受入・整理・運用の各業務を経て、書庫もしくは各研究室・図書室に配置され、研究者の利用に供せられております。これらの図書館業務は近い将来に電算化されて、処理のスピードアップが期待されておりますが、当面の問題として蔵書目録の整備と書庫の増築を果たさなければなりません。

まず書庫について申しますと、本館の現有書庫は昭和46年3月に建てられて約20万冊の収容力をもっております。しかし10年後の今日の蔵書数は既に28万冊を超え、毎年2万冊に近い増加が見込まれています。但しその中12万余冊は各学部研究室に分散されており、また3万余冊が開架閲覧室に置かれておりますが、なお書庫内の蔵書は雑誌が図書換算で約5万冊を加えて17万冊に達しております。今後数年ならずして満杯になることは必定でありますから、今から増築に着手しておかなくては動きがとれなくなります。そこで現在の書庫の傍に積層書架5層、収容力約20万冊の増築書庫を構想し、関係各方面の従協力を請うて実現への努力を開始いたしました。

なお将来、図書資料は無限に増加を続けるわけではありますが、大学図書館改善調査班の報告によれば、有効に利用される図書館蔵書数の限度は、大規模校で100万冊まで、中規模校以下では50万冊までとしております。将来これを超える分については、別に造った保存書庫への移し替え、他の機関への移管・譲渡、または廃棄などの方策を講じなければならないと考えられております。

次に蔵書目録の整備であります。残念ながら本学図書館にはいまだ総合的な蔵書目録が出来ておりません。もっとも蔵本分館の方では、10余年前から年度毎の受入図書目録を継続して作成しており、これが蔵書目録としての需要をも充たしております。しかし蔵書冊数の多い本館の方は、学生用図書などを収録した部分目録がこれまでに二、三作られただけで、総合的な目録作成には着手しないまま今日に至っております。

幸い一昨年度から昨年度にかけて、学内所蔵雑誌の総合目録（欧文編及び和文編）が、係員の非常な苦心によって作成刊行されましたので、引き続いて予算上実現しやすい分量の総合目録として、年次毎の分類蔵書目録の作成を計画いたしました。なお準備不足で本年度の予算編成に組みこむことができませんでした。図書資料の計画的な収集、研究調査の能率化、相互利用の発展から考えて、蔵書目録の整備は図書館として欠くことのできない基本的な要務であります。来年度からの実現を期して、十分検討を重ねて参りたいと思います。

図書館は全学的な共通施設であるだけに、予算機構や定員措置において、他の部局には見られない特殊性があり、そこに運営上の難しさも伴っております。こうした環境の中で、當々として職務に励み研修に努めて、図書館発展の推進力となっておられる館員の皆さんに対して、深く感謝いたします。

中国古代の哲人老子の前半生は周の柱下の史であり、それは周王室の図書館司書に当たると考えられておりますが、私は「大国を治むるには、小鮮を烹るがごとくせよ」という老子の言葉を奉じて、館員の皆さんの創意工夫による図書館業務の向上と発展を、期待してやみません。

(附属図書館長)

前館長として

松本淳治

分館長、館長と連続して勤めた4年間はやはり長い時間だった。今はホッとした感じがするたびに、私の脳の思考領域の一角を“図書館”が占めていたことをつくづくと感じ取っている。

分館の運営と館長の補佐をしなければならない分館長職も大変だったが、何といても図書館全体の責任を背負わされる館長職は重いものだった。いまだにときどき図書館の様子が気になったりするの、長かっただけに責任だけではなく愛着の念までおこっていたのだろう。

今も一番、気になっていることは、事務長、総務係長の交替、係長をしていた二人の古い司書の退職に伴っておこる職場の異動であり、それが結果的にうまく行っているだろうかということである。もちろん、図書館としての最高の議決機関は運営委員会ではあるものの、実際に図書館業務を実行してゆくのは館長以下の職員である。さらにはっきりしたことを言えば、図書館の中でよほどの事がない限り図書館と共に在る職員は司書職員であり、その人たちの力が充分に発揮されるような状態に持って行くのが館長以下の職員といえるだろう。

それだけに司書職員のより一層の研鑽が望まれている。ことに情報の電算化時代になっていることを考えると、もっとも手をつけやすいのは図書館であり、それが残念ながら徳島大学の図書館では進んでいない。情報サービスについてはようやく分館にJOISが備わったにすぎず、管理的業務としての図書館資料の受入・貸出業務、目録業務のコンピューター化はこれからである。もしこれが完成した時には業務組織の改編・名称変更もおこるだろうし、業務の一部を機械まかせにしたことによる職員の研鑽時間の増大もおこるだろう。

その点で司書職員に望みたいのは図書館を利用する大学の学生・研究者に対する情報サービスというよりは情報指導が出来るほどの能力を養成することであり、そこが単なるサービス業務とはちがっているはずである。その点、ことに新しく入った司書諸氏に期待するところが大きく、また古い司書諸氏たちは、自ら勉強すると共に指導をして頂きたい。それからとすればおこりがちな本館・分館対抗意識であり、それは業務上の競争意識ならば結構なものではあるものの、本来、徳島大学の図書館は一つのものであり、地区が分れているために便宜的に二館になっているだけだということを基礎理念にして頂きたい。その意味では職員の交流をより一層はかってほしい。

なお、将来としては図書館は大学と共に進むものであり、現在、徳島大学の組織内には未決定の問題があり、図書館だけの先走りは却って無駄な労力になるだろう。しかし、図書館の蔵書数は10年に2倍になるといわれており、これに対する計画は進めても無駄にならないだろうし、将来は各研究者も認識されるように図書・雑誌の図書館への集中化を考えると、とくに本館の増築が必要である。また本館・分館ともにこの際に廃棄処分を要する資料の検討を行って、利用度の低下した資料を収集する保存書庫も増築計画の中に含まれなければならないだろう。その際の増築も規模を大きく考えて、博物館も兼ね備えた、映画観覧室、小ホールなどもある別棟を建設し

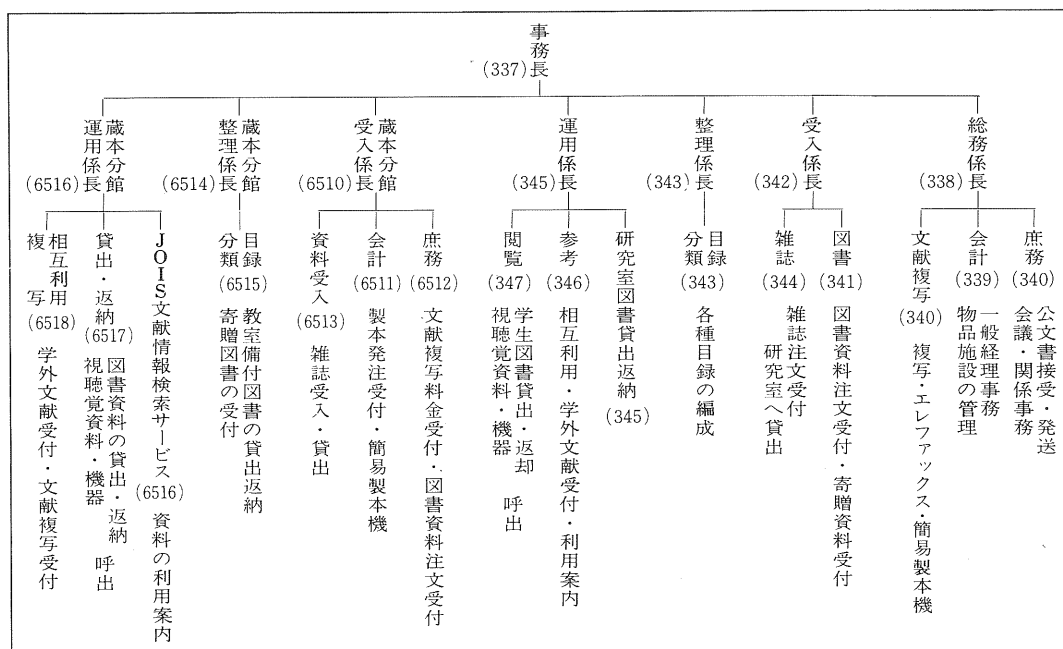
て優雅な図書館になってほしいと願っている。

なお、館長・事務長に期待したいことは、一つは定員増の推進であり、そのためには文部省情報図書館課、大学本部事務局の協力を得なければならない。もう一つは、国立大学図書館協議会における各図書館のクラス別の再編成であり、そのためには地区および全国協議会に参加して要望を盛り上げなければならない。終りに、とにかく諸氏の健闘を祈る。 (医学部教授)

館長・分館長・運営委員

館長	(教育学部)	竹治貞夫	55.4.2～57.4.1		
分館長	(医学部)	桧沢一夫	55.4.1～57.3.31		
附属図書館運営委員					
教育学部	本多	浩	57.2.28まで	松田隆夫	57.3.31まで
医学部	名取	靖郎	57.3.31	松本圭藏	〃
歯学部	高田	充	〃	坂東永一	〃
薬学部	小林	茂	〃	寺田弘	57.2.28まで
工学部	杉尾	捨三郎	〃	浦川和馬	〃
教養部	後藤	健次	57.2.28	後藤寿夫	57.3.31まで

附属図書館事務組織図



() 内数字は内線電話番号を示します。

昭和55年度附属図書館文化行事の開催について

(経過報告)

すでにご承知の通り附属図書館の活動事業として昭和53年度より文化行事を行うことになり、第1回、2回はそれぞれ本館において「日本近代文学展」、「日本現代地図展」として開催され、学内ばかりでなく、広く学外の方々にも特定の日を限って公開をしてまいりました。

この種の催しは、附属図書館が所蔵する資料の中でも日常目に触れる機会の少ない資料であるだけに感懐を新たにするといった点で真に大きな効果があるのではないかと考えております。これは、主催者側として過去2回の経験を通して感じるものであるが、この文化展を観られた方からも同様に感想が聞かれました。

このように一昨年以来附属図書館の継続的文化事業が常三島地区（本館）において催されましたが、本年度は蔵本地区（分館）において文化事業を受け持つことがこのほど附属図書館運営委員会において決定されました。以下に蔵本地区（分館）の文化事業の概要について経過報告をしておきます。

主要テーマとしては仮称「医学・薬学古書文献展」とし、あわせて阿波の医学の源流をたずねるような企画を予定しております。内容の一部を紹介しますと、阿波の医家である賀川玄悦、高良斎他の著作物、肖像画、拓本等を基としてその系図と経歴を示し、この著名な人物像を浮き彫りにし判りやすく表現してみたいと考えております。また個別적으로는我が国最初の人体解剖学書である、杉田玄白の「解体新書」の原本及び復刻書、「蘭学事始」上・下（復刻書）ほか多数、そしてシーボルトの手術道具（模刻品）を個別に展示します。その他に徳島在住の布川氏寄贈になる「本草綱目」新校正44冊、「傷寒六法」1～6巻ほか約300冊、ウィリアム・ハーヴィの「血液循環論」、マルチェッロ・マルピーギの「マルピーギ全著作集」（初版本、復刻書、エッチングによる医学美術書）ほか全5冊、を中心

に古典的医・薬関係の図書と関連資料を添えた形で展示したいと考えております。

展示日程は11月7日(金)～16日(日)の間とし、場所は分館セミナー室及びホールの一部を使用する予定です。

現在の展示計画の進捗の程度は、個々の資料の解説付けを進めておりまして9月には展示の詳細に入って行く予定にしております。この展示に当っては蔵本に在住の福島先生の格別な資料の提供、ご指導を頂いておりますことを付け加えさせていただきます。

たお、本展示計画を進めるについては、十分に想をねっている積りですが、何分初めてのことでもありますので種々遺漏があらうと思われまますので付言、留意等ご助言頂ければ幸いです。

こんな便利な機器があります

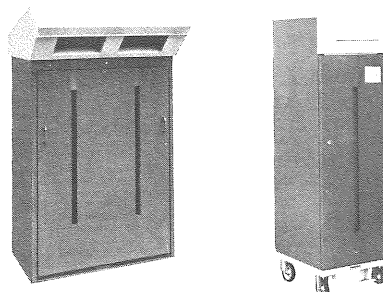
ブック・ポスト

開館時間前（午前9時以前）、閉館後（20時、16時30分以後）に図書を返却される方の便宜をはかるために、本館・分館双方玄関口にブック・ポストを備えつけてあります。

下部にあるペダルを踏むと投入口が開きますから図書を入れて下さい。

帯出証は、開館前返却はその日のうちに、閉館後返却については翌日に係員に申し出て受けとって下さい。

借用図書の返納忘れの防止のためにも、ぜひ利用して下さい。



ISU図書館雑感

多木敏彦

昭和53年8月末より1年間米国のアイオワ州立大学エイムス研究所へ文部省在外研究員として派遣された。図書館について一文をといて筆をとったが、米国の大学図書館については「附属図書館報」や「風だより」にて諸先生方により種々の形で紹介されているのでアイオワ州立大の図書館—特にPhysical Science Reading Room—について限定して書いて見ようと思う。

御存知の如く、エイムス(Ames)はアイオワ州のほぼ中央部にあり、州都デモイン(Des Moines)より約30マイル北に位置する小さな都市です。その人口は約5万人で、その大部分はアイオワ州立大(ISU)の教官、職員及び学生です。この米国中西部の州は大豆、トモロコシ及び食肉の中心地です。特に大豆及びトモロコシはその大部分が家畜の飼料として日本へ輸出されています。春から夏にかけてはいたるところ大豆とトモロコシ畑で、high wayを車で走ってもどこまでも続くこれらの穀物の畑の連続で何の変化もないたいくつきが200マイルでも300マイルでも続きます。冬になればこれらの畑は雪と枯草色に変化します。気候は、11月末より4月上旬までの約半年は、寒く道路は凍結し、多くは降らない雪も一度降ると中々融けず残り、気温は-30℃近くになります。雪が降ってもAmes市内は除雪がゆきとどいていて立ち往生することはありませんが、土・日に降ると月曜日の朝まで除雪されません。また、夏は連日30℃の暑さが続き、一年を通じて雨は少ないですが、竜巻と雷が多い地域です。数年前には竜巻で小さな町が全滅したこともあります。竜巻が発生するころになると、避難法と避難場所に関するinformationが研究所の週報にけいさいされます。

ISUはその前身が農学校で約100年の歴史を持っている。Dr. Speddingのウラニウム製の功績に対して戦後原子力委員会直属

のAmes Laboratoryが作られ、現在ではDepartment of Energy直属の研究所として、水素energyの利用、石炭に関する基礎研究や原子力の研究などで米国のenergy関係の研究のメッカになっています。

図書館についていいますと、中央図書館と各学部の図書館とから成り立っています。中央図書館は外観3階建てであります。その一階はinformation関係で貸出、返却の手続、入館許可書の発行及び全蔵書(約120万冊)と雑誌(約9,000種)について、どこにあるかということについてのinformationが簡単に得られます。また、地下はtypewriterが設置された室と語学関係のtapeの貸出し及び校費でcopyするときのXeroxが置かれている室等があります。一般学生のcopyは一枚5centのcoin式のcopy machineが置かれていて処理されています。2階以上は半分にかけて、open式の書棚にして、窓なしの閲覧室で一方の壁ぎわに机がおかれており蔵書や資料を閲覧しています。多くの蔵書を少数の人員で手ぎわよく整理し、かつ利用者のserviceに努力しています。

次に開館時間は、8:00amより午前0時までが通常であります。返却は閉館後も出来るように特別に返却用の入口があり、そこにある返却箱に入れるようになっています。ISUではquarter制ですので秋、冬、春の3quartersと夏に特別quarterがあり、在学期間の短縮に用いられています。米国では皆様方よく御存知のように、学部及び大学院学生ともに毎日多くの宿題、reportが出るので熱心に図書館通いをして月～金までの一週が終ります。成績が悪いと他校への転学又は退学が勧告されるので、週末以外は真剣に勉学に励んでいます。

雑誌について述べますと中央と各学部の図書館で重複しないように取っています。また、各研究室では学会員になって自分の研究に是非必要なものを一種程度取っています。contents serviceもカードに各研究分科に分けて整理したものがまわってきます。ただし申し込み制ですが、また、貸出し中の図書、

雑誌については予約をしておけば返却されると通知書が来ます。

雑誌は中央図書館でも複写に限り2時間の貸出が許可されていますが、Physical Science Reading Roomでは物理、化学、生化学、金属系の雑誌約200種程度を取っています。ここも開館時間は8:00amより午前0時迄です。ここは小さいので職員は2~3名です。雑誌と単行本とが書庫に入っています。数十畳敷きの閲覧室がついています。新着雑誌は一ヶ所の棚の上にならべられていて、自由に閲覧出来ます。しかし貸出は2時間に限られています。ただし夕方5時以降は翌朝8時までの貸出が許可されています。一年分は製本しないで窓際の手棚に置かれており、そのvolumeが完結するとすみやかに製本されて、不自由ないように配慮されています。ここにも5cent/枚のcoin copy machineが置かれてあり、学生はこれでcopyしています。

図書館の開館時間が長いので講義終了後とか夕食後に十分に活用しています。夜間の管理には学生のパートタイマーを多く使っています。日本の大学図書館も学ぶことが多いことを痛感しました。

以上、ISUの図書館について見聞したことを書きましたが、短期間で浅学菲才の身ゆえ、博識博聞の諸先輩により補完、訂正していただければ幸である。

(工業短期大学部教授)

雑 報

○公開学術講演会開かる。

と き・6月6日(金)13:30~15:50

ところ・徳島大学教育学部310教室

講 演 学術情報システム計画について
その他

講 師 広島大学教授山本純恭氏他

図書館からは河田、助岡、三井、向井、村田、鎌田、泰地が聴講した。

○図書館法30周年記念集会開催さる。

昭和55年6月8日(日)午後1時から、新装なった厚生年金会館1階大ホールで約200人の参

加で開催された。

記念講演には、徳島県出身の国立国会図書館顧問、酒井悌氏の「変貌する図書館界」があった。

図書館からは、助岡、岡田が参加した。

こんな便利な機器 ビデオで学習を

附属図書館では、昨年度末特別予算によって購入されたホームビデオ機器を備えています。

機種としては

三菱ビデオカセットレコーダー

HV-5000W

三菱ビデオチューナー VT-500

三菱ビデオプロジェクター

LVP-500・VE-500

となっています。特にビデオプロジェクターのスクリーンは、有効画面が幅1,035、高さ775mm(通称50形)で、二階の視聴覚室に設置されていて50名位のグループ学習にも支障のない程の画面と音量で利用が可能です。

このような機器も含めた視聴覚資料の利用については近く定められる「徳島大学附属図書館視聴覚資料利用要領」に従ってください。

ただ一つ残念なことですが、このビデオはVHS方式ですから、他の方式であるβ方式のビデオテープは使用できません。

ちなみにVHS方式をとっているメーカーをあげますと、日本国内では三菱、松下電器産業、シャープ、赤井電機、日本ビクター、海外では、MGA、RCA、マグナボックス、GE、シルバニアなどとなっています。(三菱のカタログより)



図 書 館 統 計

蔵 書 数

(昭和55年3月31日現在)

	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館(本館)	209,629 ^冊	73,261 ^冊	282,890 ^冊	4,203 ^{種類}	1,770 ^{種類}	5,973 ^{種類}
蔵本分館	63,387	55,370	118,757	2,092	2,401	4,493
計	273,016	128,631	401,647	6,295	4,171	10,466

年間受入数

(昭和54年度)

	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館(本館)	12,079 ^冊	4,236 ^冊	16,315 ^冊	2,419 ^{種類}	1,134 ^{種類}	3,553 ^{種類}
蔵本分館	2,407	2,745	5,152	737	1,078	1,815
計	14,486	6,981	21,467	3,156	2,212	5,368

利用人員

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
利用人員	教職員	3,110 ^人	14,379 ^人	17,489 ^人
	学 生	86,729	26,593	113,322
	その他	366	247	613
	計	90,205	41,219	131,424

貸出冊数

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
貸出冊数	教職員	12,614 ^冊	22,995 ^冊	35,609 ^冊
	学 生	18,422	16,905	35,327
	その他	0	0	0
	計	31,036	39,900	70,936

視聴覚利用人員

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
視 聴 覚	教職員	— ^人	24 ^人	24 ^人
	学 生	361	2	363
	計	361	26	387

文献複写(人数)

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
文 献 複 写	教職員	3,315 ^人	4,969 ^人	8,284 ^人
	学 生	192	410	602
	その他	673	1,287	1,960
	計	4,180	6,666	10,846

文献複写(枚数)

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分館	計
文献複写	教職員	45,660 ^枚	54,826 ^枚	100,486 ^枚
	学生	1,501	4,527	6,028
	その他	5,900	11,906	17,806
	計	53,061	71,259	124,320

相互利用(人数)

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分館	計
相互利用	教職員	388 ^人	1,042 ^人	1,430 ^人
	学生	33	154	187
	その他	249	1,031	1,280
	計	670	2,227	2,897

相互利用(件数)

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分館	計
相互利用	教職員	1,349 ^件	1,846 ^件	3,195 ^件
	学生	126	244	370
	その他	781	1,944	2,725
	計	2,256	4,034	6,290

参考調査(人数)

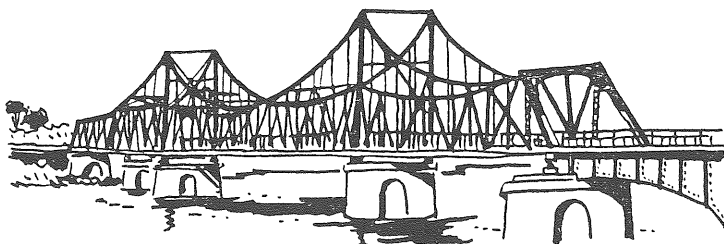
(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分館	計
参考調査	教職員	1,381 ^人	3,653 ^人	5,034 ^人
	学生	988	3,248	4,236
	その他	14	45	59
	計	2,383	6,946	9,329

参考調査(件数)

(昭和54年度)

		附属図書館(本館)	分館	計
参考調査	教職員	2,678 ^件	4,591 ^件	7,269 ^件
	学生	1,426	3,950	5,376
	その他	16	99	115
	計	4,120	8,640	12,760



外国雑誌購入費（文部省）による購読雑誌リスト

（21号所載リスト以降到着分）

無印は附属図書館（本館）、*印は蔵本分館備付け雑誌

1. Computer Graphics and Image Processing. (USA).
2. Fortschritte der Physik. (DDR).
3. IEE Proceedings;- (GBR).
 - Part A. Covering Reviews, Physical Science, Measurement and Instrumentation, Management and Education.
 - Part B. Electric Power Applications.
 - Part C. Generation, Transmission and Distribution.
 - Part D. Control Theory and Applications.
 - Part E. Computers and Digital Techniques.
 - Part F. Communications, Radar and Signal Processing.
4. International Cast Metals Journal. (USA).
5. Mathematical Systems Theory. (USA).
6. Modern Plastics International. (USA).
7. Precision Engineering. (GBR).
8. Resultate der Mathematik. (SCH).
9. Software: Practice and Experience. (GBR).
- *10. Wilhelm Roux's Archives of Developmental Biology. (DEU).
11. Zeitschrift für Physik;-
 - Sect. C. Particles and Fields.(USA).

附属図書館に受入係新設

昭和55年4月1日付をもって附属図書館に受入係が新設されました。したがって今まで3係であったものが4係となり、新係の事務分掌は、徳島大学附属図書館事務分掌細則を改正し下記のとおりとなります。

なお受入掛の内線電話番号については組織図(4頁参照)をごらん下さい。

記

徳島大学附属図書館事務分掌の一部を改正する細則

3. 受入係においては、次の事務を分掌する。
 - 一 図書館資料（以下「資料」という。）の選択及び更新に関する事。
 - 二 資料の受入に関する事。
 - 三 資料の交換に関する事。
 - 四 資料の製本に関する事。
 - 五 受入統計及び調査に関する事。
 - 六 その他受入事務に関する事。

会 議

附属図書館運営委員会（昭和54年度 第8回～第10回）

第8回 昭和55年2月1日(金)（於 附属図書館）
議 題

1. 館長候補者の選出について
2. 昭和54年度予算節約額について

第9回 昭和55年2月12日(火)（於 蔵本分館）
議 題

1. 館長候補者の選出について（継続）

第10回 昭和55年2月（持ち回り）
議 題

1. 分館長候補者について

附属図書館運営委員会（昭和55年度 第1回～第3回）

第1回 昭和55年4月21日(月)（於 附属図書館）
議 題

1. 附属図書館の本年度運営方針について

2. 昭和56年度概要算求について

第2回 昭和55年5月19日(月)(於 蔵本分館) 議 題

1. 昭和54年度附属図書館経費決算書について
2. 昭和55年度附属図書館経費所要額について

第3回 昭和55年5月30日(金)(於 附属図書館) 議 題

1. 昭和55年度附属図書館経費所要額について
(継続) 以 上

出 張

(昭和54年12月1日～昭和55年6月30日)

- 2月29日 国立国会図書館, 印刷カード利用館との懇談会(於 国立国会図書館)
出席者 運用係長 助岡 君二
- 4月22日 昭和55年度新採用職員研修(於 高松
～25日 第2地方合同庁舎) 出席者 蔵本分館
運用係 向井 克明
- 5月8日 第28回中国四国地区大学図書館協議会
～9日 総会(於 松山郵便貯金会館) 出席者
館長 竹治 貞夫
事務長 秋山欣之介
- 5月12日 昭和55年度漢籍担当職員講習会
～17日 (於 京都大学人文科学研究所附属東
洋学文献センター) 出席者 整理係長
助岡 君二
- 5月15日 国立大学図書館協議会理事会(昭和54
年度第3回)(於 東京大学附属図書館)
出席者 館長 竹治 貞夫
- 5月30日 昭和55年度国立大学附属図書館事務
(部・課)長会議(於 国立科学博物館)
出席者 事務長 秋山欣之介
- 6月5日 第16回日本医学図書館協会中国四国部
～6日 会(於 愛媛大学附属図書館医学部分
館) 出席者 蔵本分館受入係長
尾原 忠雄 同係 上田 智一
- 6月18日 第8回四国地区中堅係員研修(於 高
～27日 松第2地方合同庁舎) 出席者 総務係
村沢 知治
- 6月18日 第27回国立大学図書館協議会総会
～20日 (於 東北大学記念講堂) 出席者 館長
竹治 貞夫 事務長 秋山欣之介

来 館 者

(昭和54年12月14日～昭和55年6月30日)

- 1月22日 東京大学附属図書館
総務課長 岩井 昭三氏
- 1月31日 島根医科大学附属図書館
資料係長 新田 昭隆氏
資料係員 小田原利夫氏
- 2月5日 東京外国語大学附属図書館
総務主任 名倉武二郎氏
- 2月5日 横浜国立大学附属図書館
整理課長 雨森 弘行氏
- 2月8日 東京大学附属図書館
整理課長 浅野 次郎氏
- 2月13日 九州大学附属図書館医学部分館
受入掛長 西嶋 武氏
閲覧掛長 出島 照義氏
- 2月19日 岡山大学附属図書館
収書係長 近藤 清治氏
文部事務官 小林 洋一氏
文部技官 善木 浅義氏
- 2月27日 大分大学附属図書館
閲覧係長 宮野 暢子氏
総務係員 小森 憲員氏
整理係員 村上 章徳氏
- 3月10日 山口大学附属図書館工学部分館
閲覧係長 安田 浩規氏外2名
- 3月26日 電気通信大学附属図書館
事務長 片岡 利正氏

人 事 往 来

- 新図書館長
竹治 貞夫 (教育学部教授) 55. 4. 2.
- 前図書館長
松本 淳治 (医学部教授) 55. 4. 1.(任期満了)
- 新分館長
檜沢 一夫 (医学部教授) 55. 4. 1.
- 前分館長
亀谷富士夫 (薬学部教授) 55. 3. 31.(任期満了)
- 運営委員会委員は、4頁を参照下さい。
- 採 用
向井 克明 蔵本分館運用係 55. 3. 25.
元山 光代 附属図書館運用係 以下55. 4. 1.
村田 康彦 蔵本分館運用係
- 配 置 換
秋山欣之介 附属図書館事務長(庶務部庶務課
課長補佐)
福家 健二 附属図書館総務係長(学生課学生
会館係長)
河田 政雄 附属図書館受入係長(蔵本分館運

用係長)
 助岡 君二 附属図書館整理係長(附属図書館
 運用係長)
 尾原 忠雄 蔵本分館受入係長(蔵本分館整理
 係長)
 三井 忠臣 附属図書館受入係(蔵本分館運用
 係)
 昇 任
 芳川 詩 附属図書館運用係長(附属図書館
 整理係)

桜木 強 蔵本分館整理係長(附属図書館総
 務係)
 近藤 英子 蔵本分館運用係長(蔵本分館運用係)
 転 出
 今倉 卓 附属病院管理課照査係長(附属図
 書館総務係長)
 退職
 世戸 守 附属図書館事務長 (停年)
 松本 亀吉 附属図書館整理係長 (")
 沖田 学 蔵本分館受入係長 (")

目		次	
就任あいさつ	1	図書館統計	8
前館長として	3	外国雑誌購入費(文部省)による 購読雑誌リスト	10
組織図	4	附属図書館に受入係新設	10
昭和55年度附属図書館文化行事の 開催について	5	会議	10
こんな便利な機器があります	5	出張	11
I S U 図書館雑感	6	来館者	11
雑報	7	人事往来	11
こんな便利な機器 ビデオで学習を	7	後記	12

開館時間

授業期		休業期	
月～金	土	月～金	土
9時～20時	9時～16時30分	9時～17時	9時～12時30分

後記

館報22号をおとどけます。

季節と徳島の名産藍を頭にうかべて標題の色を表紙構成者の村上先生に相談の上、出来あがり
 のようにしました。いかがでしょうか。

今後1年毎に色を変えてみたいと思っています。内容でお気付きのように人事面でも大きくか
 わりました。

業務上少々の停滞もあったかと思いますが、今はもう軌道に乗った今日この頃です。

夏休みを前に一刻も早く皆様のお目につけて編集者一同急ぎ急ぎの仕事となりました。読
 みづらい点御容赦下さい。

今後共、図書館をよくするために利用者の皆様の御協力をお願いします。

永年労苦を共にしました整理係長松本亀吉、
 受入係長沖田学両氏が停年で退職されました
 ことをお伝えし、お二人の今後の御健勝を祈
 りたいと思います。

「館報」題字：松本 淳治(医歯学教授)

表紙構成：村上 正典(教育学部 助教授)

正誤表(21号)

	誤	正
14頁 組織表	蔵本分館受入係	局番31 2111
19頁 上から10行目	総務係	局線31-3111
19頁 上から16行目	合計	合計
19頁 下から14行目	在じます。	存じます。
	お届すべく	お届けすべく
	マイクロ版年次	マイクロ版を年次

編集：発行

徳島大学附属図書館

(〒770)

徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)23-2310 内線(338)